

濟世委員制度の研究 1

松原 浩一郎

Study of Saisei-Iin System Vol 1

Kouichiro MATSUBARA

Abstract

The Saisei-Iin system was founded in 1921 in Okayama prefecture. It is a poverty prevention system with Saisei-Komon system. Saisei-Iin system has not been studied much. This is because it was positioned as an adjunct to the Saisei-Komon system. The two systems are similar. But there are differences. For example, the Saisei-Iin system employs a mandatory principle. Therefore, it is necessary to study separately. This study uses The Saisei-Komon and Saisei-Iin roster. And reveal the name and occupation of Saisei-Iin. Finally, I would like to mention the significance of Saisei-Iin system.

Key words : Saisei-Iin, Saisei-Komon, poverty prevention system

キーワード : 濟世委員, 濟世顧問, 防貧制度

1. 問題の所在

現行の民生委員・児童委員の嚆矢は、1917年岡山県で創設された濟世顧問制度と言われている。あるいは、翌年創設された大阪府方面委員制度という主張もある。また、この両制度にくわえて、東京府慈善協会に組織された救済委員も含めて、比較検討される論考は多数ある。^{*1}

濟世顧問制度は、翌年蜂起した米騒動に対応するには不十分な制度であった。そこで、これを補足するために、濟世委員制度が創設された。従来この両制度の研究は、先行して創設された濟世顧問制度が多く論じ

られて、後発の濟世委員制度について論じられることはきわめて少ない。それは濟世委員制度が、濟世顧問制度を補完する目的で創設されたため、基底の制度である濟世顧問制度の研究が中心になったものと思われる。くわえて、両制度の設置規程がきわめて類似しているため、先行する濟世顧問制度の研究に濟世委員制度が包括されてしまっているのである。たとえば、濟世顧問になるためには、知事から依頼される形態をとる。そして、その際、各自治体の首長や当該自治体を管轄する郡長や警察署長が人選をして、知事に推薦する。その際の基準は濟世顧問制度設置規程第4条に示されている。このような依頼に関する規程は、濟世委

員もまったく同じで、かつ人選基準についても同様である。さらに時代背景もほぼ同じで、濟世顧問制度創設後4年後に濟世委員制度が設置されて、その後第二次世界大戦終戦までこの制度は続くのである。このため両制度ともに、天皇制封建制度の中で、隣保相扶の構築に中心的な役割を果たしたのである。

しかし、両制度には違いもある。その最大のものは、濟世顧問制度は則闕主義をとったのに対して、後発の濟世委員制度は必置主義であった。このため、依嘱状況には大きな違いが生じた。さらに救護法や方面委員令などの制度成立に伴い、両制度は異なる役割を担うことにもなった。

このように、両制度は決して同一の制度体系を維持して推移したのではない。そのため、両制度は成立やその後の経緯を別々に研究する必要があるのはいうまでもない。このため、これまで研究対象とされてこなかった濟世委員制度を、歴史的・制度的に明らかにすることが本研究の目的である。

2. 研究の方法

濟世委員制度の意義を、歴史的・制度的に明らかにするために、本稿では、濟世委員制度の概要を『岡山縣濟世制度二十年史』等の資料および先行研究から明らかにしたい。くわえて、岡山県内務部(のちに學務部)から刊行された濟世顧問・濟世委員名簿を用いて、濟世委員の依嘱状況を市町村別に分析する。なおこれらの名簿は岡山県立図書館に所蔵されている。また、紙面の都合で、本稿は研究1として、後半部分(川上郡以降から岡山市)は別稿において取り扱うことにする。

3. 濟世委員制度の概要

(1) 濟世顧問制度の概要

まず、先行して創設された濟世顧問制度について、その概要を押さえておきたい。

濟世顧問制度は1917(大正6)年に岡山県知事笠井信一の強い指導の下で創設された。その目的は、濟世顧問設置規程(1917年5月12日岡山県訓令第十号)第一条に「防貧事業ヲ遂行シ個人並ニ社会ヲ向上セシムルコトヲ以テ目的トス」と示されている。町村に1名ずつ、当時唯一市制を敷いていた岡山市は方面に1名ずつ、知事が依嘱する。濟世顧問は個人の自由裁量により防貧活動をすることを趣旨とした。当時そのような能力を有していた者は少なく、その人選は容易ではなかった。笠井は「我ラノ要望スル如キ適當ナル顧問ノ多数ヲ選定セントスル事ハ事実不可能デアル」と言い、多くの人材を確保することが困難だという現実を鑑み、一町村に一名としたのである。さらに複数の濟世顧問がいると「甲顧問ノ指導方法ト、乙ノ顧問ノソレト往々ニシテ扞隔スルコトモアラウ」と述べ、濟世顧問を一人にすることで「其ノ責任ノ重大ナルコトヲ感ズルノ便モアル」と述べている。^{*2}その人選は第四條において、郡市長が関係警察署長と町村長と協議して推薦するように指示している。濟世顧問の資格(要件)は、第五條に6つの条件を示している。それは、①人格正シキモノ、②身体健全ナルモノ、③常識ニ富メルモノ、④慈善同情心ニ富メルモノ、⑤市町村内中等以上ノ生活ヲ営ミ、少ナクトモ俸給ヲ以テ衣食ノ資ニ供セサルモノ、⑥忠実勤勉其ノ職務ニ尽スヘキモノ、である。適当な人物がない場合は依嘱をしないという則闕主義をとった。これについては、元岡山県社会課長原保雄は当時を振り返り「濟世顧問制度は世例の画一的制度ではない。謂う迄もなく人あらば之を囑託し、人なくば即ち止む。一定の程度基準以上の人物であれば喜んで之を囑託するも無理に乙は丙に勝り、甲は更に乙に勝るの故を以て若干の不满を抑へて甲に之を囑託すると謂う様な方針を採らなかつた。従つて濟世顧問が出来ない町、置かれない村があるのは自然だとした。」^{*3}と述べている。また、町村長の職にある者は「自治行政に干渉する者であるが故に」濟世顧問に囑託せざる方針をとった。^{*4}

救貧事業と防貧事業の相違および防貧事業の方法について創設者の笠井知事は「救貧は事後であり、防貧は事前である。事後の救貧にも事前の調査が必要である。事前の防貧には殊に平素の調査が必要である。茲に地方各方面に有志機関を置き、其の方面を分担して各家庭の内容、其の地方の外形、実質を審明して対策を定め置かば防貧上の効果が挙がるに相違ない。斯る不断的、現実的、具体的調査は実は官吏では出来ぬ。各方面の篤志家に依つて始めて出来る。」と言ひ、ここでも官吏を排除する理由をのべ、それに代わり篤志家が戸口調査を実施する意義を明示している。またこの人物は「同一市町村に永住し親の代から自然に顔なじみの有志者に依嘱」して、さらに「貧民計りでなく相当家庭に至る迄生計程度の実地調査を為し各方面の民情、習慣殊に悪習慣等を査察せしめ県庁各公衛と連絡をとりて適切なる改善方法を講じ」るべきだと指示している。^{*5}

なお、解嘱および報酬の規程はない。従って終身の無給名誉職という位置づけであった。

1929（昭和4）年救護法が制定され、濟世顧問と濟世委員は、同法第四条の「委員」となる。このため、防貧事業にくわえて救済事業にも従事することになる。その後1936（昭和11）年方面委員令の制定に伴い、濟世委員は方面委員になるが、濟世顧問は方面委員にはならずそのままの名称を維持し、独自の立場で活動を継続した。

濟世顧問が誕生した時代は、ロシア革命や米騒動あるいは労働争議など階級闘争が激化し、さらに第二次世界大戦への戦時体制へとつながる転換期（戦間期）であった。それは、慈善事業から社会事業そして戦時厚生事業の時代にあたる。天皇制国家体制の強化の一方で、封建的身分制度がほころびをきたすこの時代、濟世顧問は防貧事業と救貧事業を通して、国家統制の流れに巻き込まれつつ活動したのである。しかし、依嘱は遅々として進まなかった。濟世顧問が最も多かったのは1928（昭和3）年の182名（当時の市町村

数は396、ただし岡山市を除くと168名395町村となるので、設置率は43%となる）で、1938（昭和13）年には90名（岡山市を除くと80名21%となる）まで低下する。^{*6}

以上が濟世顧問制度の概要であるが、わが国初の制度だったこともあり、とにかく走り始めたと言う感が否めない。これについて寺坂も「言わば顧問を支える組織も、予算もないままに、ひとり顧問（濟世顧問のこと：引用者）のみにすべてを委ねる形でスタートしてしまったという感が強い」^{*7}と述べている。

(2) 濟世委員設置規程

濟世顧問制度創設4年後の1921（大正10年）年濟世委員制度が創設される。先述の通り米騒動への対応の不備が大きな動機となった。濟世顧問制度を補うために、先行する大阪府方面委員制度を模倣して創設されたのである。創設の目的は「濟世委員設置規程」（1921年10月14日岡山県告示第589号）に「市町村ニ其ノ社会状態ヲ調査シ適切ナル事業ヲ遂行スルタメ濟世委員ヲ置ク」と規定されている。さらにその員数は、第二条に「濟世委員ノ員数ハ市ニ在リテハ方面毎二十名乃至二十名、町村ニ在リテハ大字毎ニ一名トス但シ区域ノ廣狹ト事情トニ因リ其ノ員数ヲ増減スルコトアルヘシ」と定められた。このように当時唯一の市制を敷いていた岡山市では方面毎に10～20名、それ以外の町村は大字に1名の必置義務を課したのである。第三条では「濟世委員ハ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ市町村ニ於ケル濟世顧問ト協議シ且相互間ノ連絡ヲ保チ必要アルトキハ関係官公署ノ助力ヲ要求スルコトヲ得」となっていて、濟世委員は濟世顧問あるいは関係官公署と協同で活動することが求められている。しかし、立場上濟世顧問に劣るわけではなく、人選の基準は第四条で「濟世委員ノ依嘱及其ノ資格ニ関シテハ濟世顧問設置規程ノ定ムル所ニ準拠ス」となっていて、さらに第五条では「濟世委員ハ名誉ノ職トシ之ヲ優遇ス」となっているなど、決して濟世顧問と主従関係にある

のではない。くわえて第六条では「濟世顧問未設置ノ方面並町村ニ在リテハ其ノ委員ノ互選ニ依リ常務委員ヲ置キ本規程ノ施行ニ関シテハ之ヲ濟世顧問ト看做ス」となっているので、先述のとおり濟世顧問の設置は進まなかったもので、多くの町村では常務委員が濟世顧問に位置づけられるようにしたのである。しかし、常務委員が不在の町村も多数あった。このように濟世委員は、必置義務を課し、さらに町村内に複数の委員を依嘱して、組織的・総合的に防貧活動を展開することが求められたのである。しかも、なかなか進まない濟世顧問の依嘱に代わって、濟世委員が実質的に防貧活動の中心的役割を担うことも期待されたのである。

(3) 内務部長依命通牒

設置規程公布直前の10月13日付で社第1032号の依命通牒が内務部長名で各郡市長宛に発せられている。その内容は、「今回設置セラレタル濟世委員制度ハ、濟世顧問ト相俟テ、県下社会事業ノ基礎的組織ヲ形成スルモノニシテ、地方ニ於ケル住民ノ生活状態ヲ明カニシ、之ニ対スル適切ナル救貧防貧策ヲ攻究スルト共ニ、貧困者ヲ指導援助シ、以テ社会共進ノ実現ヲ期スルモノニ有之」と説明し「貴下ニ於テモ宜シク誘導督励ヲ加ヘラシ」*⁸と続き、次の四つの具体的な活動内容(事業)を指示している。①生活状態ノ調査、②救護ノ徹底、③戸籍ノ整理、④児童ノ保護。*⁹くわえて、貧困者を指導援助すること、言い換えれば道徳的徳化を行うことも実践行為として求められている。生活状態や救済の徹底と共に、戸籍の整理までもが指示されている。ちなみに、この通牒では調査票も提示されていて、その記入要項も具体的に示されている。これが方面委員も使用している「カード」である。その内容は、住所・氏名・年齢や家族構成等の基本情報にくわえて、収支状況や貧困原因の記入とそれへの対策、住宅状況まで含まれている。このカードをどの程度正確にかつ詳細に記入するかは、担当する事例によって違いがあろうが、相当深く対象家庭に踏み込んで調査し、かつ分析

して対応することが必要である。基本的な事務能力は必要不可欠で、現在のケースワークの技法にも通じるものであったといえよう。

以上のような通牒が発せられて、濟世委員設置規程が公示されたのである。

(4) 濟世顧問との関係

濟世顧問(制度)との関係は「同質同様のものでありながら濟世顧問の名称に統一しなかつた理由は、濟世顧問制度が則闕主義と斯人の自由裁量に依るに引きかへ、濟世委員制度は必置主義であり、自由裁量よりは寧ろ連絡協議を重んじて普遍化、組織化を図つたという点に存したのである。ようするに濟世顧問制度は人を主とし、濟世委員制度は組織に重きを措いたものであつて、飽く迄人を中心とせる濟世顧問制度の特殊の持ち味を生かしつゝ、之が外廓機関として濟世委員制度の組織網に依る全収穫を贏ち得ようと企図したものである」*¹⁰という。しかし、実際は多くの町村には濟世顧問が依嘱されておらず、濟世委員のみが活動している。つまりこの事実は、濟世顧問の必要性が低かったことを物語っているともいえる。一方の濟世委員制度は、必置主義を採用しているものの、罰則規定はない。くわえて、解嘱規程もない。終身制の名誉職であったのだが、実際は不在の地区もあり、そもそも大字がない町村もあるなど、依嘱状況も一様ではない。いづれにしても具体的な依嘱状況の分析は後に行うが、不在の地区があることは、濟世顧問同様、濟世委員自体の存在意義の検証も行う必要があろう。

なお、解嘱については定めはないものの、実際には多くの濟世委員の交代が行われている。死亡によるものも多くあると思われるが現状ではその理由は定かではない。今後の研究としたい。解嘱規程は後年定められている。以下の通りである。

(5) 依嘱並解嘱取扱方針

1932年の岡山県通常県会(現在の県議会)において

濟世制度の研究調査費が可決され、大綱が示された。その大綱により実現したことの一つが濟世事務所の設置であり、さらに嘱託・解嘱の規定であった。濟世事務所は、岡山市（県庁社会課）と津山市および高梁町の3カ所に設置され「濟世事業ノ連絡統一及其ノ指導監督ニ関スル事務を掌理セシムル爲濟世事務所を設ク」（濟世事務所設置規程，1934（昭和9）年6月28日岡山縣訓令第四十七號）と目的が示された。

これより先，1933（昭和8）年11月に以下の方針が発出され，嘱託と解嘱の詳細が明らかにされたのである。

濟世顧問，濟世委員嘱託並解嘱取扱方針

嘱託ニ関スル事項

- 一、濟世顧問ハ左記該当ノ者ノ中ヨリ選任スルコト
 - (一) 従来相当年月濟世委員ノ職ニ従事シ功勞顕著ニシテ将来共相当活動性ニ富メル者
 - (二) 其ノ他従来少クトモ十ヶ年以上社会公共ノ爲ニ尽瘁シ，将来共相当活動性ニ富メル者
- 二、濟世委員ハ左ノ者ノ中ヨリ選任スルコト
 - (一) 地域内ニ於テ従来相当社会公共ノ爲ニ尽瘁シ将来共最モ活動性ニ富メル者
 - (二) 担当地区ノ有無ニ拘ラズ医師，産婆等特殊ノ技能ヲ有スル者ニシテ従来相当社会公共ノ爲ニ尽瘁シ将来共最モ活動性ニ富メル者
- 三、濟世顧問，濟世委員共左記該当ノ者ハ之ヲ避ケルコト
 - (一) 政党的色彩濃厚ナル者
 - (二) 著シク老齡ナル者
 - (三) 地元市町村ニ不在勝ナル職業ニ従事セル者
 - (四) 不純ナル動機ニ依リ推薦ニ係ル者
 - (五) 家庭，郷党等ニ於テ折合悪シキ者
 - (六) 地元ノ事情ニ精通セザル者
 - (七) 市町村長，学校長ノ職ニ在ル者
- 四、資産偏重ノ風ニ陥ラザルコト
- 五、濟世顧問ニツキテハ現地調査ノ上慎重ニ取扱フコト

解嘱ニ関スル事項

- 一、濟世顧問，濟世委員ノ解嘱ハ本人ノ願出ニ依ルコト
- 二、濟世顧問，濟世委員ヨリ辭職願ヲ提出シタル場合ハ市町村長ノ意見ヲ徴シ処分スルコト
- 三、濟世顧問設置規程第五條及濟世委員設置規程第四條ノ資格ヲ失ヒ其ノ在職ヲ不適當ト認ムル者ニ関シテハ成ルベク市町村長ヲ通ジ辭職願ヲ提出セシムル様慫慂スルコト
- 四、左記事項ノ一ニ該当シタル場合ハ市町村長ノ報告ニ依リ解嘱スルコト
 - (一) 担当区域外へ転住シタルトキ
 - (二) 禁錮以上ノ刑ニ処セラレタルトキ
 - (三) 各種ノ事由ニ依リ職務ヲ遂行スルノ見込ナク而モ辭職願ヲ徴シ難キトキ
- 五、濟世顧問ノ解嘱ニシテ必要ト認ムルトキハ実地ヲ調査シ慎重ニ取扱フコト

このように、これまで両制度設置規程に示されていた人選に関する基準が、より詳細に明らかにされた。しかしすでに10年ほどを経過して、現実的には多くの濟世顧問と濟世委員が依嘱され、かつ任を辞している。このような現状を鑑み、解嘱については初めて明確な基準が定められた。これにより終身制は、一部に変更が加えられた。濟世事務所を設置したことで、濟世事業を専任で扱う職員が事務を担当することになり、依嘱と解嘱の基準をより明確にする必要があったものと思われる。また、嘱任不可に市町村長が明記されている。これについては、先述のとおり濟世顧問制度発足当初から指示されていたことであつたが、現実に役場三役（首長，助役，収入役）が依嘱されていて、徹底できていなかった現状があつた。しかもこの取扱が発せられた後も、解嘱にはならず、依嘱されたままの状況が続いている。地域の防貧や救貧事業を実施するためには、役場三役や地方議会議員が事業に従事せざるを得ない状況があつたのはいうまでもない。しかもこ

れら名誉職自治を担ったのは、当該地域の名望家であった。そのため、同じ名誉職である濟世顧問や濟世委員に依嘱されたのであった。制度考案者の笠井知事は、救貧は地方行政機関に担わせることにして、濟世顧問には防貧事業を行うことをもくろんだ。しかしそもそもこの両事業を分けることに整合性がない。むしろ一体的に事業を実施するほうが得策だといえる。さらに笠井は、一枚の辞令で転々と在職地が変わることを理由に、これら行政職に従事している人物へ濟世顧問を依嘱することに難色を示した。しかし、笠井自身のように高級官僚ならばそのような状況は現実のこととしてあるが、地方自治に従事していた首長や議員は選挙で選ばれているのでそのような危惧を考慮する必要がなかったはずである。むしろ地域の実情に最も精通している首長が、濟世顧問や濟世委員になるのは当然ともいえる。反対に積極的に依嘱すべきだったのではなかろうか。ただし、両制度は名誉職として「きわめて保守的な共同体の名士偏重に陥っている」*11と寺坂も指摘するように、名士あるいは名望家しか就任できないような資格（基準）を規程しているので、きわめて限定された中から人選せざるを得なかったのも事実であった。それが、依嘱されていない地域が存在した一因であったともいえる。

4. 名簿の概要

(1) 名簿の発行状況

表1は、本稿で活用する濟世顧問・濟世委員名簿の概要である。（以下本稿においての記述は、発行された和暦年に版を付す）濟世顧問の名簿は制度創設翌年1919（大正8）年に発行されているが、*12 残念ながらこの名簿の実物は入手できていない。その後創設された濟世委員も含めた名簿は、大正12年に発行されている。これより以前の名簿が存在するのかどうかは不明であるが、岡山県社会事業協会編『岡山縣濟世制度二十年史』内の年表にはその事実は記載されていない。

また、濟世委員制度は1921（大正10）年10月に創設されているので、その後1922（大正11）年に依嘱がほぼ整い、名簿の編纂にかかり、1923（大正12）年3月に発行したと推測することもできる。くわえて岡山県立図書館に所蔵されている大正13年版名簿の表紙には、印刷されているタイトルとは別に、何者かによる墨書で「二刊大正十三年三月末日現在」と補記されている。これに従うならば、この前年発行の大正12年版が一刊ということになる。

発行状況をみると定期発行ではなかったといえる。つまり、大正12年版と13年版の間はほぼ1年、その後昭和3年版まで4年、昭和5年版までが2年7ヶ月、昭和7年版まで1年7ヶ月、昭和10年版まで3年2ヶ月、昭和13年版まで3年の間隔がある。このように不定期であった。

(2) 名簿の目的

名簿の目的は、各名簿の最初に「例言」として明らかにされている。初刊である大正12年版と大正13年版および昭和3年版には「濟世顧問及濟世委員の集团的活動は時代の切なる要求、こゝにその名簿を頒布する所以である」と説明されている。昭和5年版と昭和7年版には目的が記されていない。昭和10年版では「例言」ではなく「はしがき」となり、明確に名簿の目的が述べられている。以下の通りである。「一、本名簿は濟世顧問、濟世委員間の連絡を便せん為編纂せるものなるを以て、相互の連携協力上充分之を活用して頂き度い。」次に昭和13年版は「本名簿は濟世顧問、方面委員間の連絡に資せん為編纂せるものなるを以て相互の連携協力上充分利用して頂き度い。」と記されている。なお、昭和10年版にはさらに以下のような指示が続くのである。「因みに他府県の方面委員名簿は本庁社会課並に津山、高梁兩濟世事務所に備付けてあるから他府県と交渉ある事項に就ては之を利用せらるゝか或は他府県社会課又は市役所、町村役場気付にて他の方面委員と連絡に努めて頂き度い。」さらにくわえ

表1 濟世顧問・濟世委員名簿一覧

タイトル(表紙)	発行年月日	発行元	目次	担当戸数	職業	定数	濟世委員名簿に濟世顧問設置の記載	集計表	集計表の方面委員総数	電話番号	掲載頁総数	その他の記載事項や特徴など		
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿	大正12年3月	岡山縣内務部社會課	×	○	×	×	×	○	2513名	×	96頁			
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿	大正13年4月1日	岡山縣内務部社會課	×	○	×	×	×	○	2518名	×	96頁			
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿	昭和3年3月31日	岡山縣學務部社會課	×	○	×	×	×	○	2476名	×	91頁			
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿	昭和5年11月1日	岡山縣學務部社會課	×	○	○	×	×	○	2354名	×	92頁			
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿	昭和7年5月28日	岡山縣學務部社會課	○	○	○	○	○	○	2626名	×	106頁			
岡山縣濟世顧問 濟世委員 名簿 昭和十年版 岡山縣社會課	昭和10年7月20日	岡山縣學務部社會課	○	×	○	×	○	○	2620名	○(個人・役場の電話番号)	107頁	濟世事務所の名称所在地及受持区域表	濟世顧問と濟世委員分離せず記載	横書き
昭和十三年版 岡山縣濟世顧問 方面委員名簿 附 岡山縣方面委員銜銜委員會委員 岡山縣方面事業委員會委員 岡山縣社會課	昭和13年6月30日	岡山縣學務部社會課	○	×	○	○	×	×	-	○(役場の電話番号のみ記載)	109頁	岡山縣方面事務所一覧	表紙、附の委員名簿もあり	

注) 定数とは救護法による各市町村の定数の記載を意味する。

て、「二、本名簿は昭和十年六月一日現在に據れるも今後異動ある場合は財団法人岡山縣社會事業協會機関誌『連帯時報』誌上を利用して毎月通知する筈なるを以て之に依り加除訂正して頂き度い。因みに六月一日現在数は本冊子終頁に示せる通りである。」と続いて記述されている。

表1のように、名簿は刊を重ねるごとにおおむね記載内容(項目)が充実して行くのであるが、昭和10年版には定数の記述がなくなり、昭和13年版では個人の電話番号の記載がなくなっている。この理由については定かではない。掲載上の最大の違いは、昭和10年版のみ、濟世顧問と濟世委員を分離せずに記述していることである。つまり、これ以外の名簿では濟世顧問が最初にまとめて記載されていて、その後濟世委員の氏名が、岡山市から始まり、御津郡へそして久米郡まで順次掲載されている。昭和10年版のみが特殊な掲載方法をとっている。くわえて、職業欄の記載も、昭和10年版が最も詳細に記述されている。たとえばこれ以外の名簿では「商業」となっている場合でも、この名簿では「商業」と記載されている者もいるが「青果問屋」「自転車商」「呉服商」などより詳細な業種が記載されている者もいる。「工業」も同様に「鉄工業」など詳細な記述もある。また「医師」は、「医師」と「歯科医師」と「獣医師」に区別されている。「官吏」や「公吏」についてもそのまま記述されている場合と、「村長」や「助役」や「収入役」「郵便局長」などと記載され

ている者もある。ただし「農業」「僧侶」「神官」は差異がない。このように昭和10年版は、詳細な分類を行っているので、職業欄は200種類以上におよぶ。

5. 各郡毎濟世委員の変遷

(1) 名簿分析の概要

各年の名簿には、最初に岡山市の各方面毎の濟世委員名が記載され、続いて御津郡から19番目の久米郡まで、郡内各町村別に濟世委員名が記載されている。町村合併により、新しい町村名になったものや所属する郡が変更になったものもある。このような場合は、合併までは旧の町村名で、合併後はその町村名や位置する郡に変更して記述している。(御津郡賀茂村と福山村のように、連続する町村同士が合併した場合は、そのまま継続して記述している) また、途中で村が町にあるいは市に昇格した場合は、その事実を町村名の下部に記述している。また町村名の下部に記述している数字は、大字数を表す。大字がない場合は-印にしている。さらに→右の数字は救護法に基づいて、昭和7年版名簿に記載されている定数を表す。=は大字数と定数が同一であることを意味する。さらに→右の数字は昭和13年版名簿に記載されている定数であり、概ね昭和7年版と同じであるので、変更がない場合は記述をしていない。昭和7年版以降において、この定数と記載されている人員数が同じ場合は、定数を満たして

いることを意味する。なお、大字および救護法定数と実際の人員数の比較については、別稿において県内すべての市町村を分析し考察することになっている。

氏名欄は原則最も古い大正12年版に記載されている氏名を基軸にして、その後の名簿において同一の人物の場合は、○で記している。つまり、継続していること（引き続き就任していること）を意味している。×印はその大字（あるいは大字がない場合は、当該自治体が設定している地区）に濟世委員が不在になったことを表す。新たな氏名が記述されている場合は、前任者の担当地区を引き継いで新しい人物が依嘱されて担当していることを示す。また、同一地区をさらに分割して担当している場合もある。その場合は、一人のみ氏名を記述して、他の氏名は新たな欄に記述している。また、あらたな担当地区が設定され、そこに新たな依嘱がされた場合は、その時点（その年の名簿）から記載している。職業欄については、原則名簿のままとした。そのため、昭和10年版が職種の多さが目立つ。おおくは職業の変更があったのではなく、従来の職業分類を細分化して記載している。氏名や職業などで、あきらかに誤植と見なすことができる場合は、筆者が独断で変更を加えている（たとえば、介や助の違い、治や次の違いなどである。職業では、名簿上「同右」と省略している場合などに、他の年の名簿と照合して明らかに誤植として認められる場合などが比較的多く存在しているので、訂正している）

(2) 表2解説（凡例）

最後に「表2 市町村別濟世委員の推移」の見方について解説をくわえておく。

御津郡最初の牧石村を例にとる。村名下の6は大字数を意味する。→8名は救護法の定数を表す。昭和13

年版も同数なので記述をしていない。実際の人員は7名で、昭和13年版まで同数を維持している。つまり、大字1名の定員は満たしているが、救護法の定員には1名減となり定員を満たしていない。昭和7年版では2名、昭和10年版では1名の変更が行われている。

同郡の平津村は以下のようにになっている。大字数と救護法定員は同じく5名である。昭和3年版では大字数に対して一名減となっている。昭和5年版では3名減、昭和7年版と昭和10年版では4名減で、1名（一つの大字）しか在籍していない。昭和13年版では4名の依嘱があり、全員で5名になっている。しかし詳細を分析すると、竹原淳一郎の担当地域が三つに分かれて3名が依嘱されているので、新たな欄に2名記載している。つまり原（鹿）と福田が担当した2つの大字は不在のままになっているのである。このような新規に依嘱された者の担当地区が明らかになることは稀で、名簿のみの記載だけではどの地域を分割担当したものか判明できないことがほとんどである。また、後月郡西江原村の青木幸太郎や大山信は、昭和3年版に氏名があるが担当地域の記述がない。しかし、昭和5年版ではそれぞれ担当地区が明記されたので、それぞれ山成と大山壽久平の欄へ変更している。上房郡高梁町藤井さく・赤木堂満をのように、地区名が未記入のまま解嘱している者もある。氏名欄の網掛けは、濟世顧問不在の町村において、濟世顧問の役割を担う常務委員を表す。常務委員は濟世委員の互選で決定することになっている。なお、同人物が引き続いて担当している場合は、その後の網掛けは省略している。なお、常任委員が解嘱した場合（×印）は、当該町村に新たな人物が常務委員になるべきであるが、不在状態が多数ある。

高陽村	石原金市	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	藤野喜平治	商業
18→19名→18名	土井原利三郎	○	×	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業
	生本三五	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業
	安井清次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	藤原峰太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	西崎佐傳治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	國定壽太郎	○	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	公吏	井原藤吉	農業
	葉上親然	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
	西岡理八	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	花房稻太	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	血井龍吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	血井佐之治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	鳥羽石金吾	○	×	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	平島義男	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	中永瀧三郎	○	○	○	農業	○	中永常五郎	○	農業	○	農業
	眞野徠浩	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	医師
	池本金吾	○	○	×	×	後藤二郎	○	○	○	○	農業
	岡野藤吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	×
	岡野鹿三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	岡野万五郎
		本並善五郎	○	×	×	×	×	×	×	×	×
			花房 保	○	医師	○	医師	○	医師	○	医師
											青井常次
西山村	坂内茂八	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
5→8名→7名	赤松常次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	内田駒次郎	○	○	○	農業	○	農業	×	×	○	内藤堅太
	花房新次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	房延糸次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	則武義太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
			小竹守善吉	○	農業	○	農業	×	×	×	×
											花房定太
鳥取上村	坂本直平	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
6→11名→9名	川淵嘉平次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	近藤 寛	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	×
	内藤久吉	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	中下貞三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	越宗義治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
			道満邦政	○	教育家	○	教育家	○	教育家	○	教育家
			小坂順太郎	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	公吏
			藤本安太	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
			道満長四郎	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
											井上兼介
軽部村	岩藤林三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
6→10名→11名	加賀美正夫	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	若林鮫太郎
	清野與之吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	若林桃太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	花房東海	○	○	○	古谷托美	○	農業	×	×	○	齋藤 勇
	友次彰夫	○	○	×	×	尚原 康	○	商業	○	商業	○
	秋山舜造	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
						國富隅太郎	○	×	×	○	大森長一
						福井 範	○	神官	○	神官	重友猪三太
											歳森孝徳
											加藤時太
											松岡倫男
笹岡村	松岡岩五郎	○	○	○	○	農業	×	×	○	農業	○
5→9名	堀 善太郎	○	○	○	○	農業	○	○	農業	○	農業
	頼則三代次	○	○	○	○	商業	○	○	農業	○	頼則正人
	湯原幸三郎	○	○	○	○	商業	×	×	農業	○	湯原歎次
	原田徳吉	○	○	○	○	藤原平兵衛	○	○	農業	○	原田廣人
	湯原彌七郎	○	○	○	○	無職	○	○	農業	○	無職
	佐々木幾三	○	○	○	藤原圓次郎	農業	○	○	農業	○	二宮善太郎
	行正房太郎	○	×	○	僧侶	○	○	○	僧侶	○	僧侶
	高島仁八	○	○	○	農業	○	○	○	農業	○	農業
周匝村	尾關鹿太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
4→8名→7名	樽原安次郎	○	×	○	樽原糸一	農業	○	○	農業	○	農業
	長田長五郎	○	○	○	○	×	×	○	農業	○	農業
	小原源次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	荒木 要	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	宇尾僚平	○	○	○	農業	○	農業	×	×	×	×
	黒田武太郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	源 十万作
	角南 衛	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
山方村	直原四郎	○	○	○	農業	直原徳治	○	○	農業	○	農業
5→9名	徳吉三日一郎	○	○	○	徳光音一郎	農業	○	○	農業	○	津高賢忠
	近藤哲四郎	○	○	○	○	医師	○	×	×	×	×
	奥本徳五郎	○	○	○	○	農業	○	○	農業	○	農業
	門野建雄	○	○	○	○	神官	○	○	神官	○	×
	勝田 勇	○	○	○	枝光忠治	農業	○	○	農業	○	農業
	丹下萬吾	○	○	○	○	農業	○	○	農業	○	橋 誠一
						中原米三	○	○	農業	○	農業
						平尾貴太郎	○	○	農業	○	農業
											荒島常四郎
											久延万四郎
仁堀村	南石正志	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
7=7名	藤本房二	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	角南縫二	○	○	○	農業	○	行友與長次	○	農業	○	農業
	大元利平	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	平尾哲衛	○	○	○	官吏	○	官吏	○	官吏	○	官吏
	小野善美太	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	戸川恒雄
	宮本圓太郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	公吏
布都美村	岸本正男	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
6=6名	柏坂萬次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	雄松彌吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	眞光梅吉	○	○	○	有本荒蔵	農業	○	○	農業	○	農業
	戸川一磨	○	○	○	農業	○	農業	×	×	○	本城佐勇太
	定清藤太郎	○	○	○	農業	藤原藤一	○	○	農業	○	服部義雄

竹枝村	片山富平	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
4→5名	山本多平治	○	○	○	農業	田淵美男	殺物検査員	○	農業	○	農業	
	大崎久次郎	○	○	×		大崎 太		○	公吏	○	公吏	
	佐藤森一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	岸 啓太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
五城村	福島長男	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
5→6名	戸川専治	○	○	○	無職	児島綾太郎	医師	○	医師	○	医師	
	内藤善三	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	小森柳吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	白鬚 精	○	白鬚孝一	×		×		×		×		
	齋藤貞亥人	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
											樽村善太郎	請負業
葛城村	矢鋼右馬次	○	○	○	農業	西田和二郎	農業	○	農業	○	農業	
3→4名	福森丈四郎	○	○	○	農業	後藤長三	農業	○	農業	○	農業	
	佐藤清作	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	友直鹿五郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業	
佐伯北村	岩藤正志	○	×	×		南部孫太郎	製造業	○	筆軸製造業	○	商業	
5→7名	中務海治	○	○	○	商業	○	商業	○	洋品販売	○	商業	
	今井田條策	○	○	○	教育家	○	教育家	○	教員	○	商業	
	周藤清也	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×		
	直原松太	○	○	○	教育家	○	教育家	○	教員	○	農業	
	橋本徳惠	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	農業	
	奥田菊松	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	阿部虎一	
佐伯本村	小田健造	○	○	○	農業	小田 卓	農業	○	農業	○	農業	
4=4名	武田 豊	○	○	○	官吏	○	官吏	○	郵便局長	○	官吏	
	延岡 静	○	○	○	医師	○	医師	岡 清一郎	呉服商	○	僧侶	
	澁谷佐三治	○	○	○	農業	久永喜文治	農業	○	農 觀誠	○	僧侶	
佐伯上村	竹内澤治	○	○	○	公吏	○	公吏	○	農業	○	農業	
5=5名→7名	尾崎竹太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	福力富太郎	
	戸川彦次郎	○	○	○	農業	戸川兵造	農業	○	農業	○	農業	
	河本久太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	喜多島直養	
	片山菊三	○	×	×		片山美太郎	醸造業	○	農業	○	無職	
											小坂雅綱	農業
石生村	新田禮三郎	山口榎松	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
4=4名→6名	藤原勝治	○	○	○	農業	×		×		×		
	青木伊三平	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	藤原賢造	○	○	○	農業	○	農業	近藤志賀太	○	○	農業	
											阿部鶴吉	農業
豊田村	森田友吉	○	○	○	農業	森田平造	農業	○	農業	○	農業	
7→8名	藤森 榮	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	弓削初太郎	○	○	○	農業	下村鶴三	農業	○	農業	○	犬井壯一	
	岡野萬三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	景山樹一	○	×	×		廣瀬時男	農業	×			藤原規應	農業
	金谷熊太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	平松朋太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	山形長次郎	
	永瀬初二	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
小野田村	豊田友三郎	○	×	×		豊田植太郎	農業	○	農業	○	農業	
5→6名	内田太郎	○	内田梅太郎	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	行本健三郎	○	行本吉男	○	×	佐々助一	農業	○	農業	○	農業	
	吉野嘉吉	○	○	×		小林喜美治	農業	×		×		
	行本鐵次郎	○	永宗雅夫	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	森本森三	○	○	×		森本保太	農業	○	農業	○	農業	
可眞村	原 壽治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	富岡一太	
6→10名→9名	堀内近二郎	○	金光利三二	○	農業	○	農業	松田武喜三	○	○	農業	
	金光政一	○	○	○	公吏	松田晃一	農業	○	農業	○	農業	
	立石利久	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	勝山春治	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	×		
	金平理十次	○	○	○	農業	金平百太	農業	○	農業	○	金平千代吉	
	大森健三郎	○	○	○	農業	金光石次郎	農業	○	農業	○	農業	
	小野 磐	○	小野千吉	○	農業	○	農業	○	農業	○	栗原惠吉	
	藤森秀男	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	公吏	
			金出金一	○	医師	○	医師	×		×		
太田村	寺見鶴太郎	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	醤油醸造業	○	醸造業	
4	西田利惣治	○	○	○	官吏	○	官吏	○	農業	○	土井定市	
昭和7年から吉岡村	荒木誠一	○	○	○	教育家	○	教育家	○	農業	×		
と合併萬富村	田中掌玉	○	○	×		×		×		×		
12名→10名	平松龜太郎	○	○	×		平松啓太郎	医師	○	医師	○	医師	
			金光冠三郎	○	農業	木村學靜	○	○	○	×		
吉岡村	篠笠文二	○	○	○	農業	近藤信敬	農業	○	農業	○	農業	
4	赤木源平	○	○	○	農業	重定石造	農業	○	農業	○	農業	
昭和7年から太田村	大岩彌三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
と合併萬富村	川上猪三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
瀬戸町	入矢勘三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
6=6名→10名	高野伴次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	入矢林太	
	近間鉄吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	井本柳平	
	岡本宗一郎	○	茂成段三郎	○	農業	○	農業	○	農業	○	額田 勇	
	茂成定平	○	○	×		常尾清太	農業	○	料理店	○	額田鶴三	
	岡 數吉	○	○	○	農業	島村常太	農業	○	農業	○	岡 柁次	
											岡 柁次	商業
											土井惣三郎	商業
											羽原忠義	無職
											淺井重一	農業
											元岡辰平治	農業
潟瀬村	豨見利平	○	○	○	農業	○	農業	×		×		
3→10名→9名	豨見仁太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	土井福三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	行吉雪太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	川崎森太郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	助役	○	公吏	
	赤松千代太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	田中茂三治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	松本彌作	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
	永井一太	○	○	○	農業	永井一正	農業	○	農業	○	農業	

和氣郡	熊山村	片尾節古	○	○	○	無職	○	無職	○	無職	○	無職
	4=4名	村田福太	○	x	x		○	伊永澤吾	○	農業	○	農業
		矢部武七郎	○	○	○	農業	○	矢部 登	○	農業	○	農業
		山田泰三	○	○	x		○	山田市平	○	農業	○	農業
	鶴山村	額田猪之平	○	○	○	農業	○	農業	○	公吏	○	公吏
	4→5名	小長竹次郎	○	○	○	農業	○	松田喜作	○	商業	○	商業
		石原清作	○	○	○	農業	○	○	○	農業	○	農業
		守時千代松	○	○	末石種次郎	○	○	○	○	農業	○	宇時熊太
		山形多三郎	○	○	○	農業	○	○	○	農業	○	農業
	香登村	岡村良六郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	x	
	3→6名→5名	佐藤久吉	○	○	○	農業	○	小橋猪作	○	商業	○	商業
	昭和2年町制	藤田喜太郎	○	x	楠原馬治郎	○	○	○	○	官吏	○	郵便局長
		小西圓三	○	○	○	商業	○	○	○	商業	○	長瀬時男
		紀井定平	○	○	濱田定平	○	○	○	○	農業	○	農業
	伊部町	大饗正太郎	○	○	○	農業	○	○	○	農業	○	農業
	3=3名→4名	田中重吉	○	○	○	農業	○	○	○	農業	○	農業
					中村才八	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	鉄工業
												佐藤敏夫
	片上町	万代常閑	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	医師
	2→5名→6名	三村 剛	○	○	x		○	x	x		x	万代 尚
					奥寺晴藏	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
					奥寺春臺	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
					中村俊雄	○	○	医師	○	医師	○	医師
					草加七郎	○	○	公吏	○	公吏	○	会社員
					三村俊平	○	○	教育家	○	教育家	○	教員
												森島五一郎
												商業
	伊里村	中島 輝	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	7→11名	佐々井銀治	○	○	○	会社員	○	会社員	○	会社員	○	会社員
		浄原祐賢	○	○	x		○	x	x			浄原慶之
		大饗柳平	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業
		菊井李太郎	○	○	○	会社員	○	会社員	○	会社員	○	尾上法彰
		井上 勲	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	公吏
		横山 計	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		大西長太郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	播本悦治
		正宗義夫	○	○	○	漁業	○	漁業	○	漁業	○	上品淳應
		妹尾光濟	○	○	x		○	x	x		x	
	日生町	松本説太郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
	2→12名→9名	難波不二郎	○	○	○	銀行員	○	銀行員	○	銀行員	○	銀行員
		金谷 二	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業
		今川嘉彌治	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	x	
		木羅清吉	○	○	○	漁業	○	漁業	○	漁業	○	漁業
					森谷虎吉	○	○	商業	○	商業	○	商業
					那須正俊	○	○	神官	○	神官	○	神官
					龜井多美二	○	○	商業	○	商業	○	商業
					下林善吉	○	○	商業	○	商業	○	商業
					松本關松	○	○	漁業	○	漁業	○	漁業
					川淵兼治	○	○	商業	○	商業	x	
					佐藤信正	○	○	商業	○	商業	○	商業
												業判師
												x
	福河村	延谷利吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	2→8名→3名	島村謙次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		菊井八九郎	○	○	柿山秀吉	○	○	農業	○	農業	○	農業
		横山貞次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	x	
		吉栖徳次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		有吉初治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		相元義市	○	○	x		○	x	x		x	
	三石町	谷口静志	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
	3→8名→16名	花岡義定	○	○	○	会社員	○	会社員	○	公吏	○	会社員
		櫻間三郎	○	○	櫻間二一郎	○	○	農業	x	農業	○	上田惠省
		西角政次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		八木安太	○	○	○	神官	○	神官	○	神官	○	菊政逸治
		北川又三郎	○	○	○	請負業	○	請負業	○	請負業	○	請負業
		末廣梅吉	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	x	
								明田規次郎	○	商業	○	商業
												末廣貞男
												阿部光範
	美保村	北川輝雄	○	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	工業	○	工業
	6→7名→6名	濱田茂三郎	○	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	工業	○	公吏
		森本嘉四郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	武元栗太郎
		神崎利三吉	○	○	○	農業	○	農業	x	農業	x	
		臼井鐵雄	○	○	○	醸造業	○	藤原益太郎	○	醸造業	○	醸造業
		西田喜十郎	○	x	○		○	岡本明治	○	無職	○	延原熊太郎
		武元最久三郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	高取治郎吉
												平 正雄
												國光 惠
	神根村	川西 浩	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	公吏
	4=4名	中川敬吉	○	○	○	農業	○	農業	○	宗岡彌太郎	○	公吏
		小川長三郎	○	○	○	代書	○	代書	○	無職	○	公吏
		石野丑太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		竹内安四郎	○	○	○	事務員	○	事務員	○	信用組合理事	○	岡田満米
	三國村	大峠義太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	高橋一美
	4→5名→4名	藤本延太郎	○	○	藤本房吉	○	○	農業	○	農業	○	農業
		作本愛三	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	田村茂雄
		川井新藏	○	○	○	農業	○	川井源次郎	○	醸造業	○	醸造業
	藤野村	三好真喜治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	4→6名→8名	徳永道太郎	○	○	○	農業	○	x	x			谷 源三郎
		大森清三郎	○	○	○	農業	○	仲原鹿太郎	○	信長	○	信用組合長
		目賀關造	○	○	○	農業	○	大田原英一	○	医師	○	医師
								砂子喜代藏	○	農業	○	農業
												村上健夫
												村内 寛
												松笠 賢
												國友秀夫
												農業
												醸造業
												医師
	本莊村	好本善太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	6→9名→11名	岸本新一郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	公吏
		岡野全治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
		松笠數太	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業	○	醸造業
		山根豊吉	○	○	高原英夫	○	○	医師	○	医師	○	医師

		國久友三郎	○	○	万代和平夫	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
		神崎亮三郎	○	○	神崎俊三郎	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
		岡田兼松	○	○	岡田常太郎	商業	○	商業	○	商業	○	商業	
					八幡綱治	商業	○	商業		商業	○	商業	
											藤原想太	農業	
											青山楯治	商業	
											小山徳三郎	官吏	
和氣町	2→7名→9名	日笠利太	○	○	x		x	山崎榮太郎	農業	○	農業	○	農業
		恒次傳之祐	○	○	銀行員		藤本林三	農業	○	農業	○	農業	
		吉岡文太	○	○	小原純藏	商業	○	x	○	x	○	○	
		宇高與太郎	○	○	○	農業	○	宇高憲造	農業	○	農業	○	
		岩藤日暉	○	○	○	僧侶	○	○	○	○	○	○	
					三宅衞吉	農業	○	○	○	○	○	○	
											北川田期二	醫師	
											北畠 潔	旅館業	
											友實元吉	無職	
											岸本正徳	官吏	
											三宅筆野	無職	
											瀧本増吉	官吏	
日笠村	4→8名→5名	草加孝太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
		金中安太郎	○	○	○	農業	x	x	○	x	○	○	
		谷 松次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業	
		櫻井亦男	○	○	○	農業	○	農業	x	○	○	○	
		則枝次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		正務彌會二	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		延藤品三	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		赤田永吉	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
山田村	5→8名→7名	小高眞壽太	○	○	○	教育家	○	教育家	○	○	○	○	
		岡本増平	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		坪井新八	○	○	○	神官	○	神官	○	○	○	○	
		久永輝治	○	○	○	官吏	○	官吏	○	○	○	○	
		森廣賢教	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	○	○	○	
		木戸善太	○	○	○	教育家	○	教育家	○	○	○	○	
		石田竹治	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
壁田村	4=4名	木村猪三郎	田中 雄	延原千三郎	○	農業	x	田中周平	商業	○	岩藤 忠	官吏	
		金島新五郎	○	○	○	官吏	下山會賀太	農業	○	○	○	○	
		高坂 壽	○	○	○	農業	○	○	○	○	○	○	
		高原大三郎	○	○	○	農業	○	○	○	○	○	○	
邑久郡	邑久村	長田孝一	○	○	○	醫師	○	醫師	○	○	○	○	
	4→7名→14名	尾藤修治	○	○	○	醫師	○	醫師	○	○	○	○	
		上山義高	○	○	○	商業	○	商業	○	○	○	○	
		堀野健二	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		赤枝小太治	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		大河原壽	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		嘉敷三次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
福田村	5→11名→10名	福間 慧	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		浮田八五郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		田中清三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		佐藤俊一	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		家野猛之	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		浅川春雄	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		岸野 満	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		三宅多賀太	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		宮宅俊平	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		末石實三	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
											八塔俊一	農業	
今城村	4→6名	太田玉三郎	○	○	岩崎喜三郎	農業	○	農業	○	○	○	○	
		正田虎治	○	○	太田生治	農業	○	農業	○	○	○	○	
		太田熊七	○	○	太田綱藏	農業	○	農業	○	○	○	○	
		田中鶴松	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		阿部辨次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		太田正平次	○	○	岡崎佐太郎	農業	○	農業	○	○	○	○	
豊原村	3→5名→9名	小林順太	○	○	○	教育家	○	教育家	○	○	○	○	
		木村義三郎	○	○	○	農業	○	農業	x	○	○	○	
		佐藤伊摩次	○	○	○	官吏	○	官吏	○	○	○	○	
		大森孝衛	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		小林義兵衛	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		島津登四郎	○	x	x	農業	○	農業	○	x	○	○	
											戸井 保	農業	
											柴田市治	農業	
											服部俊治	農業	
											那須壽太	商業	
豊村	7→8名	秋山種吉	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		秋山梅治	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		小田喜太郎	○	○	○	農業	○	農業	x	○	○	○	
		近藤貫一	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	○	○	○	
		正木虎重	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		岩崎金市	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		岡崎朝一	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		柴 高太郎	○	○	○	農業	○	農業	x	○	○	○	
太伯村	3→5名	藤原伯次郎	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	○	○	○	
		岡崎元吉	○	○	岡崎若松	醸造業	○	醸造業	○	○	○	○	
		奥山泰治	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		谷口嘉太次	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		合地惣二	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
幸島村	6→9名→10名	齋藤石八郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		上岡市藏	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		岡崎鐵五郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		近藤健次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		井上豊次	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		片岡泰吉	○	○	○	商業	○	商業	○	○	○	○	
		奥山堅太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	○	○	○	
		定本多嘉藏	○	○	x	○	x	岡本健太	農業	○	○	○	
		島 蕃藏	○	○	○	官吏	○	官吏	○	x	○	○	
		久保田林平	○	○	x	○	x	成本敬治	農業	○	○	○	

行幸村	野崎文吉	○	○	野崎壽太郎	農業	○	農業	○	農業	×	銀行員
4→10名→5名	東原憲三郎	○	○	○	銀行員	○	銀行員	○	農業	○	銀行員
	小橋一正	○	○	×		×		×		×	
	山本熊五郎	○	○	金光眞一	農業	○	農業	○	農業	○	石原鎮男
	河野玄造	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	
	小山達太	○	○	小山義高丸	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	長船春太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	
	長船喜八郎	○	○	長船武次郎	無職	○	無職	○	無職	○	無職
	三宅佐三郎	○	○	○	農業	○		×		×	
笠加村	赤木登志太	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
4=4名	吉田淺治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	原田民太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	赤木壽太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
上道郡	宇野村	○	○	○	無職						
8	鴨原鹿太郎	○	○	○	農業						
昭和6年より	長江八十吉	○	○	○	農業						
岡山市に合併	藤井關太郎	○	○	○	農業						
	島村萬治	○	○	○	農業						
	安井善造	○	○	○	農業						
	中塚輝太	○	○	○	農業						
	津島兼太郎	○	○	○	農業						
	原田隆光	○	○	○	農業						
	津島増壽	○	○	○	農業						
				光田平次郎	農業						
高島村	中西新太郎	○	○	○	社員	○	社員	○	社員	○	社員
8→11名→12名	織田脱次郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
	西崎俊五郎	○	○	○	農業	○	農業	×		○	小林建太郎
	光岡留吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	
	鈴木忠十郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	光吉吉次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	服部金十郎
	楠見虎吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	藤田亥幸治
	佐藤市衛	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	水藤要太
	西崎林四郎	○	○	○	農業	○	農業	×		○	西崎藤太郎
	相賀左源次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	佐藤虎吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	小山喜太郎	○	○	×		×		×		○	服部田作
幡多村	守安柳作	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
8→9名→8名	松本丑次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	吉田眞治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	吉田生造	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	岩藤廣三郎
	谷 繁	○	○	○	官吏	○	官吏	○	商業	○	官吏
	井上松五郎	○	○	大森八十二	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	田中保次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	服部藤三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	長壁鶴次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
財田村	前川清香	○	○	×		×		×		×	
8→12名→13名	河合 元	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	丸山 稔
	大森 保	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	医師
	田淵猪太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	
	小山植吉	○	○	○	商業	○	商業	×		○	高畑市松
	河合民五郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	官吏
	田淵坂造	○	○	×						○	吉田元太
	三木静次郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	×	
	鶴田金三郎	○	○	×		×		×		○	鶴田脩雄
	前田磯太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	森本貫一
	小田繁太郎	○	○	×		×		×		○	三木芳太
	中島竹太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	野崎章治
	西崎知之	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	安井鉄次郎
	大森信太郎	○	○	○	商業	○	商業	×		○	藤田七太郎
											坂根定義
											田淵豊太郎
											官吏
古都村	松本龜太郎	○	○	×		×		×		×	
5→7名	堀切増太郎	○	○	○	農業	○	吉田友吉	○	醸造業	○	醸造業
	薄井利武	○	○	藤田惠三郎	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	水内五六	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
				井上壽太郎	醸造業	○	石村熊三郎	○	事務員	○	事務員
				安井要三郎	無職	○		○	無職	○	無職
							辻川仁龍	○	無職	○	無職
								○	僧侶	○	僧侶
								○	吉岡古佐伊	○	農業
玉井村	森岡壽夫	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
4→6名→5名	藤原綱太	○	○	永森運治	教育家	○	教育家	○	農業	○	石原正法
	難波 璣	○	○	石原猛男	無職	○	無職	○	農業	○	無職
	井上留太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	井上誠一
	溝邊重信	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
											日原正光
浮田村	奥山信次	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
5→6名→5名	安倉猪三治	○	○	安倉俊三郎	農業	○	石原鹿三	○	農業	○	農業
	須々木利平治	○	○	南葉鹿次郎	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	國定吟造	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	石原寛太
	上田鳥次郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	公吏
平島村	守安覺太郎	○	○	○	商業	×		○	松井 亮	○	無職
5→6名→7名	吉田岩太	○	○	○	農業	○	農業	○	石原兼松	○	無職
	杉本廣吉	○	○	杉本玄吉	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	池太丑一郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	農業組合長	○	公吏
	草信福治	○	○	石原此吉	農業	○	農業	○	農業	○	農業
				岡 源治	農業	○	農業	○	農業	○	農業
									坪井茂文	○	神官
御林村	難波安治	○	×	×		×		○	德田良男	○	商業
7→6名→7名	長田勲五郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	辻 兼太郎	○	○	○	商業	○	商業	○	那須助三郎	○	農業
	松島永三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	河本石太郎	○	農業
	時長秀雄	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	中田竹次郎	○	○	×		×		○	守安富吉	○	農業
	藤原敏夫	○	○	○	医師	○	医師	○	医師	○	医師

黒崎村	柚木國一郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×		
→7名→14名	藤原善平	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×		
	岡部俊太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	商業兼公吏	○	醸造業	
	眞田鐵太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	眞田荒太郎	○	商業	
	原田美代治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×		
	渡邊義雄	○	○	○	教育家	○	教育家	○	農業	○	農業	
	兒玉隆澄	○	○	○	銀行員	○	銀行員	○	無職	○	銀行員	
									小林龜五郎	商業	小林彌太郎	商業
									原田清左衛門	農業	○	農業
									表榊眞田問屋	○	○	商業
									甲谷政助	○	○	商業
									西岡弘	農業	○	農業
											藤澤久次郎	醸造業
											中藤庄三郎	農業
											藤原爲次	農業
											眞田龜吉	事務員
											原田類一	商業
											若狹彌一	商業
小田郡 笠岡町	畑 幸一	○	○	○	無職	○	無職	○	無職	○	小野 博	神官
2→15名→13名	大橋惣一	○	○	○	商業	○	商業	○	煙草元売所支配人	○	立神清典	神官
	荒木福太郎	○	×	×	商業	○	商業	○	指物業	○	○	製造業及び工業
	廣井常吉	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	笠原彦道	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	内山重太郎	運送業
	篠井賢二	○	×	×	商業	○	商業	○	商業	○	○	商業
	三山重一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
	原田富太郎	○	○	○	樹 平二郎	○	農業	○	農業	○	○	農業
	駒口賢一	○	○	○	商業	○	商業	○	肥料商	○	藤井三郎	商業
	矢守國男	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	千葉 誠	無職
	芝勢治良三郎	○	○	○	松浦智傳	○	僧侶	○	館神智傳	○	僧侶	僧侶
					荒木孝四郎	×	×	×	×	×	×	×
					安原文道	×	×	×	×	×	×	×
					吉川高樓	商業	○	商業	○	木材商	○	商業
					吉岡義郎	商業	○	商業	○	紙商	○	商業
											藤原榮三郎	製造業及び工業
金浦町	高浦崇頭	○	○	○	僧侶	○	僧侶	×	×	×	神原九郎	商業
5→7名	笠原九市	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	塚本達平	農業
	谷本宇三郎	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	神原久次郎	商業
	松浦菊太郎	○	○	○	商業	○	商業	○	生魚商	○	×	×
	枝廣善五郎	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	酒、煙草商	○	×	×
	鹽飽與太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	醤油醸造業	○	×	×
	丸山利吉	○	×	×	×	×	×	×	農業	○	藤原禎太	農業
城見村	石井觀吉	○	○	○	藤川浦一	○	農業	○	笠原忠治	○	○	教員
3=3名	松浦竹藏	○	○	○	×	×	×	×	農業	○	○	農業
	高田久平	○	○	○	高田福太	○	農業	○	農業	○	○	農業
陶山村	佐藤豊八	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	大本 茂	農業
4=4名	安原文道	○	×	×	×	×	×	×	農業	○	佐藤秋太郎	農業
	西江友作	○	○	○	農業	○	農業	×	×	×	教海俊朝	僧侶
	吉井照懂	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	○	農業
	清水良一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	僧侶
	三島辨次郎	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
大江村	川合頼男	○	○	○	官原米五郎	○	農業	○	農業	○	○	農業
1→4名→3名					大塚喜三郎	○	農業	○	農業	○	○	農業
					山村久一郎	○	農業	○	農業	○	○	農業
					×	×	×	×	谷 豊作	○	○	農業
福倉村	鹽飽伍市	×	×	×	×	×	×	×	農業	○	○	農業
3→4名→3名	谷 宇一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
	佐藤定次郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
	菅原學靜	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	○	僧侶
大井村	三好嘉作	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
3→4名→5名	圓 學津	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	○	僧侶
											采女清一郎	農業
											○	僧侶
											森山高平	農業
											大平利治	農業
吉田村	重見與惣兵衛	○	×	○	德山源次	○	農業	○	農業	○	○	農業
3=3名→5名	戸川正二	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	農業
	田中猪一郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
											森田政一	農業
											石田爲夫	農業
											山田公羽	僧侶
新山村	濱田圓明	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	桑原元吉	○	○	醫師
2→4名→6名	大森健治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
	安藤悦夫	○	×	○	公吏	○	公吏	○	農業	○	○	農業
	佐藤福次	○	○	○	農業	○	農業	○	佐藤敏一	○	○	農業
											津島 尚	官吏
											谷本 俊	醫師
北川村	奥原民一郎	○	○	○	農業	○	農業	○	名越要一郎	○	○	無職
2→5名→6名	土岐嘉忠太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	無職
											守本定夫	公吏
											○	無職
											三浦義榮	無職
											○	農業
											○	僧侶
											高橋弘基	○
小田村	藤枝爲一	○	○	○	公吏	○	公吏	○	農業	○	高見景昇	農業
1→6名→5名	江本隆太	○	○	○	農業	○	農業	○	町長	○	○	公吏
大正14年町制	山本金太	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	○	商業
	高月嘉石衛門	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	商業
											伊達新一郎	農業
堺村	朝倉治久平	○	○	○	朝倉舜一	○	農業	○	農業	○	○	農業
3→6名→5名	吉貫靜太郎	○	○	○	公吏	○	公吏	○	公吏	○	○	農業
	妹尾美保三	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	○	農業
	河上勝衛	○	○	○	池田行藏	○	農業	○	農業	○	×	農業
	藤原石一	○	○	○	農業	○	農業	○	藤原 茂	○	×	農業
美山村	山室郁太郎	○	○	○	官吏	○	官吏	○	○	○	×	官吏
3→6名→3名	中本健太	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	木尾寛一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	×	×
	中岡平三郎	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	阿部學玄	○	○	○	農業	○	僧侶	○	僧侶	○	×	×
宇戸村	鳥越定次郎	○	○	○	醫師	○	醫師	○	醫師	○	○	醫師
4→2名→7名											鳥越定次郎	醫師
											岡本宇恵太	農業
											大石俊常	僧侶
											西本仁市	農業
											坂川音平	農業
											小川伊勢松	農業
											荒木若狹	神官

美川村	立川行造	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	土本律善	僧侶
4→5名	古角麻太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	谷 許一炳	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	守谷順三郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	村田俊學	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
矢掛町	山部榮五郎	○	○	○	商業	渡邊源七	会社員	○	会社員	○	会社員
2→9名→7名	渡邊禎介	○	○	○	商業	○	商業	○	商業	○	商業
	三宅熊七	○	○	○	僧侶	橋本光禪	○	僧侶	○	渡邊半太郎	僧侶
	赤澤四一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	中山幸吉	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	林 仙吉	○	○	○	農業	守屋三日造	○	農業	○	農業	農業
三谷村	荻原道雄	○	○	○	醫師	高草勘助	商業	○	醫師	○	醫師
2→6名	片山市太郎	○	○	○	神官	○	神官	○	無職	×	○
	妹尾禮太	○	○	○	醫師	○	醫師	○	醫師	○	醫師
		○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
山田村	池田文市	○	○	×		渡邊峰一	官吏	渡邊峰一	郵便局長	○	官吏
3→4名	池田孝十郎	○	○	○	農業	池田辯市	農業	○	農業	○	農業
	東 快存	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
	山下多吉	○	○	×		青木源三郎	農業	○	農業	○	山下菅治
川面村	有安卯右衛門	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
3→5名→4名	池田嘉平	×	×	×		池田國次郎	農業	○	農業	○	農業
	鳥越免次郎	×	×	×		妹尾金兵衛	農業	○	農業	○	農業
	山室熊一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
中川村	妹尾慶治郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	江本俊雅
3→5名→4名	小川護	○	○	○	農業	○	官吏	○	農業	○	農業
	多賀善太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	高月賢一
	池田好八	○	○	○	商業	○	商業	○	牛馬商	○	商業
今井村	大北慈舟	○	○	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
5=5名	仁科和一	○	○	○	教育者	○	教育者	○	教員	○	坂本豊長
	坂本勝海	○	○	○	教育者	○	教育者	○	助役	○	農業
	東山峯人	○	○	○	教育者	○	教育者	○	教員	○	教員
	暨飽近太郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	○
神島内村	長鋪詢	○	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	長鋪哲夫	醫師	○	醫師
3→4名→8名	平山千代一	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
	長安豊太郎	○	○	○	会社員	○	会社員	前川利作	○	○	農業
	鳥越 武	○	○	○	銀行員	○	銀行員	○	会社員	○	三宅九右衛門
								伊藤文吉	商業	○	製造業及び工業
								高森廣一	農業	○	農業
								大本優治	漁業	○	漁業
										○	伊藤秋造
神島外村	妹尾百太郎	○	○	×		森川猿松	農業	森川義定	船業	○	漁業
4→14名	數田萬作	○	○	○	商業	○	商業	○	運送業	○	運送業
	前川林兵衛	○	○	○	醸造業	○	醸造業	安倍 哲	醫師	○	醫師
	宮地兵惠	○	○	○	官吏	○	官吏	○	漁業	○	会社員
	松葉 仁	○	×	○		松葉百藏	商業	○	商業	○	商業
	川島千松	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	○
	長鋪丈太郎	○	○	×		明護誠心	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
	中塚吉松	○	○	○	商業	○	商業	○	官吏	○	官吏
	山川辰之介	○	○	○	漁業	○	漁業	辰之助	漁業	○	原田和吉
	原田博之	○	○	×		原田乙一	農業	○	農業	○	農業
	中川次郎吉	○	○	×		嶋田伍一	醫師	○	醫師	○	醫師
	竹田源太郎	○	○	○	漁業	○	漁業	河田信太郎	運送業	○	運送業
	山本住太郎	○	○	○	漁業	○	漁業	○	漁業	○	漁業
						教海俊岳	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
北木島村	鶴田養輔	○	○	○	農業	○	農業	今中悦之進	石材採掘業	○	製造業及び工業
1→4名→8名	河田甚策	○	○	○	公吏	○	公吏	○	農業	○	農業
	河田榮一	○	○	×		×	○	河田利木松	農業	○	農業
	明護教仁	×	×	×		×	○	安田教遠	僧侶	×	○
								河田松太郎	石材商	○	商業
								竹本竹一	農業	○	商業
								畑中富吉	石材商店員	○	商業
										○	馬越宇八
										○	山本戸一
眞鍋島村	久一久吾	○	○	○	公吏	眞鍋龍太郎	官吏	三宅巳之吉	造船業	○	濱中恭治郎
1→4名	元平松太郎	○	○	○	商業	○	商業	山下石松	農業	○	大北學雄
	中尾長松	○	○	○	商業	○	僧侶	○	僧侶	○	無職
	中村房松	○	○	○	商業	三宅榮道	商業	○	商業	○	中井八十松
後月郡	高屋村	高木金三郎	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	無職	○	中川政夫
1→5名→3名	大正11年町制	高木萬太郎	○	○	公吏	○	公吏	○	醸造業	○	醸造業
		中村正臣	○	○	農業	○	農業	○	助役	×	○
		内山熊太郎	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
出部村	鳥越慶市	○	○	○	製造業及び工業	○	製造業及び工業	○	織物業	○	吉岡榮三
3→4名	鳥越政衛	○	○	×		佐藤占太郎	製造業及び工業	○	織物業	○	織物業
	山足諒一	○	○	×		山足兵平	農業	○	農業	○	農業
	齋藤金太郎	○	○	○	醸造業	○	醸造業	○	助役・醸造業	○	醸造業
縣主村	藤井陸太	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	農業
2→4名→3名	藤井繁治	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	×	○
						尾山周平	農業	○	殺物検査員	○	官吏
木之子村	石井福藏	○	○	○	製造業及び工業	木山恒三郎	神官	○	神官	○	神官
1→4名→5名	東森嘉作	○	○	○	公吏	○	公吏	○	村長	×	○
						室谷泰津	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
						古田法順	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
								○	○	○	出原定一
								○	○	○	野宮定市
荏原村	三宅始一	○	○	○	醫師	○	醫師	○	醫師	○	醫師
2→4名→5名	三宅安平	○	○	○	事務員	石井理策	農業	○	農業	○	農業
	馬越之一	○	×	○	農業	渡邊和平	農業	○	農業	○	農業
	荒木三左衛門	○	○	○	商業	眞砂唯雄	商業	○	商業	○	農業
								○	眞砂貢之助	○	農業
								○	山田徳榮	○	僧侶
西江原村	山成謙治郎	○	×	○	会社員	○	会社員	○	会社員	○	会社員
1→4名→6名	大正14年町制	妹尾吟一郎	○	×		落合郁松	官吏	○	郵便局長	○	官吏
		大山壽久平	○	○	醫師	○	醫師	○	醫師	○	醫師
		片山鼎三	○	×		市川洞白	僧侶	○	僧侶	○	僧侶
						青木幸太郎					宗高 豊
						大山 恒					○
山野上村	田口真能	○	○	×		×	濟世顧問に就任	○	關藤完心	○	僧侶
1→3名→4名	三村敬四郎	○	○	○	農業	○	農業	○	農業	○	稻本富市
	三宅善夫	○	×	×		○	×	○	森本壽一	○	農業
								○	○	○	田中勢治郎

水田村 3→2名→4名	豊田正春 落 熊太郎	○ ○	○ ○	○ 金丸勇助	神官 農業	○ ○	神官 農業	○ 鈴木孫平 宮崇孝正 土井利太郎	神官 教員 僧侶 農業 農業	○ ○ ○ ○	神官 教員 僧侶 公吏
上水田村 一→3名→5名	佐藤辰藏 高田多部右衛門 原 大晃	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ×	農業 農業 青水衛行	○ ○ ○	農業 農業 農業	○ ○ ○	農業 農業 農業	× ○ ○	公吏 公吏 農業 僧侶 農業 農業
											西谷英治 三ツ龍雄 高田光藏 葛上蓮生

脚注

- * 1 本稿では、これらの制度の比較検討は、本稿の主旨ではないので省略する。詳細は、拙稿「濟世顧問・方面委員とはどんな人だったのか」地域社会福祉史研究会連絡協議会編『地域社会福祉史研究』第9号、2021年、において論じている。
- * 2 岡山県社会事業協会編『岡山縣濟世制度二十年史』1936年、422-423頁。
- * 3 岡山県社会事業協会編、前掲書、572頁。
- * 4 岡山県社会事業協会編、前掲書、48頁。これに加えて、岡山県社会課編（笠井信一著）『濟世顧問制度之精神』1937年、34頁において、官吏是一片の辞令で転職や休職の運命に遭遇するので、終始一貫貧者の友となるのは不適當だと言っている。
- * 5 岡山県社会課編、前掲書、23-24頁。
- * 6 濟世顧問の依嘱状況については、拙稿「岡山県濟世制度の研究」中国四国社会福祉史学会編『中国四国社会福祉史研究』第19号、2020年、53-73頁に詳しい。
- * 7 寺坂順子「濟世顧問制度に関する一考察」作陽学園学術研究会『作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要』第17巻第2号、1984年、6頁10頁。
- * 8 岡山県社会事業協会編、前掲書、103頁。
- * 9 岡山県社会事業協会編、前掲書、104-105頁。
- * 10 岡山県社会事業協会編、前掲書、101頁。
- * 11 寺坂、前掲書、10頁。
- * 12 岡山県社会事業協会編、前掲書、498頁。